



▲ 5つ紋の黒紋付羽織袴は最も格式の高い第一礼服です。5つの紋には、背中にご先祖、両胸はそれぞれの両親、両袖には兄弟、親戚の意味があるとされています。



▲ より濃く美しい黒を出すために黒一色ではなく色々な染料を調合した染液で染め上げます。



▲ 和紙を貼り合わせ、紋をかたどった機械（ポン抜き）と木箱で型紙を打ち抜きます。紋の数だけポン抜きがあります。



▲ 「死んではじめて一人前」京都で修行していた時に言われた言葉です。常に成長を続けていきたい」と友亮さん。



山勝染工株式会社  
四代目代表 ナカムラ トモアキ 中村 友亮さん

ナカムラ タケヒロ 中村 剛大さん

# 今月のフレンズ

「伝統工芸品を守り続けたい」  
新たな取り組みで未来に繋げる

名古屋市西区に、百年近く続く名古屋黒紋付染の会社があります。伝統を守り続けるとともに、時代に合ったモノづくりに挑戦し、伝統工芸の保存に繋げるための活動をされています。山勝染工株式会社の四代目代表中村友亮さんと、兄の中村剛大さんに、名古屋黒紋付染にかける想いについてお聞きしました。

## 世界に誇れる日本の着物文化

名古屋黒紋付染の歴史は古く、慶長十五年（1610年）から400年以上の歴史があり、当社は大正八年から「名古屋黒紋付染」を行なっています。現在、四代目になります。この歴史ある伝統工芸があまり広く知れ渡っていないことはとても残念です。

着物には日本の民族衣装であり、とても価値ある衣装です。最近では着物を着ることが減っていますが、着物もファッションの一つとして間口を広め、気軽に着てもらいたいと思っています。ファッション性の高い着物や着方であっても、着物の良さに気付いた方は最後には正しい着付けをされるようになると思っています。

## 伝統ある「黒紋付染め」

黒紋付染めは京都と名古屋が二大産地です。大きな違いは紋の染め抜きです。名古屋技法で行なう浸染は、何枚も張り合わせた和紙を紋の形に抜き、金網で挟み、生地を縫い付けます（紋当金網付技法）。その後、高温の染料に生地を浸けて染色を行います。和紙で作った紋型紙は染液に付けると膨張し、生地を圧迫するので、染

## 料の侵入を防ぎます。

京都と名古屋では紋の染め抜きなど、違う技法を用いておりませんが、これからはそれぞれではなく、日本の黒紋付染めとして、伝統工芸を盛り上げていく必要があると考えています。

また、伝統工芸を後世に残すためには、伝統を守ると同時にライフスタイルの変化に合わせたモノづくりも大事です。そのため、伝統の黒紋付染めだけでなく、ストールやTシャツ、革製品など、染めの技術を活かした新たなモノづくりに挑戦しています。これら商品を通して、古くから伝わる伝統工芸の良さを知っていただくことで、伝統工芸の保存にも繋がると考えています。

## 名古屋黒紋付染の保存のために

染色の魅力を知ってもらうには、情報発信が何よりも大切です。そして仲間を増やし、一緒に伝統産業を盛り上げていきたいと思っています。

新たなことをはじめるには課題も多くありますが、色々な角度から染色の魅力を伝え、少しでも多くの方に名古屋黒紋付染を知っていただきたい。そのために、これからも活動してまいります。



▲ 着物を気軽に着てもらうため、カジュアルな着物も制作しています。これがかっかけて黒紋付染への関心が高まることを願っています。



▲ ホームページやFacebookのほか、イベントでの講演やオリジナルハンカチ体験教室など、染色の魅力を広く情報発信しています。



▲ 新たな取り組みとしてははじめた染色加工。色々なブランドとコラボした商品開発など、新たなモノづくりに挑戦しています。



▲ 「人との出会いは一期一会。助け合う関係の中で新しいことが広がっていくと思います」と剛大さん。

今月の表紙説明

弟（左側）が伝統を守り、兄（右側）が新たな取り組みにチャレンジし、伝統工芸の保存に繋げる。二人三脚で名古屋黒紋付染の歴史を守っています。

Company Data【会社概要】

創業	1919年（大正8年）
所在地	名古屋市中区西2-6-28
TEL	052-523-1601
URL	http://yamakatu.co.jp/
事業内容	名古屋黒紋付染、着物の染め・しみ抜き、衣料染色加工など